

昭和38年秋季年会（仙台）

講演予稿集

於 東北大学金属材料研究所講堂

日本天文学会

目 次

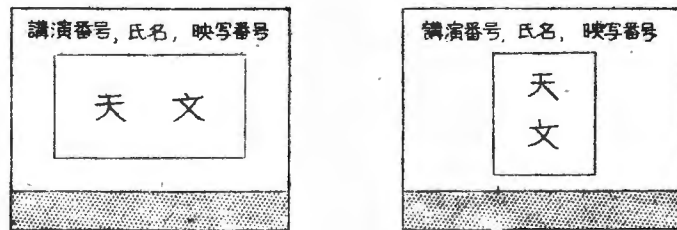
	講演番号	頁
♪1 日午前 位置天文学	1—12	2
♪1 日午後 { 位置天文学 天体力学 太陽系 }	13—30	7
♪2 日午前 { 恒星天文学 電波天文学 }	31—44	13
♪2 日午後 { 天体物理学(太陽) 天体物理学(恒星) }	45—62	17

註： 講演所要時間の前の ☒ の印は、スライドを使用するもの

スライド映写希望者におねがい

スライド映写にあたって、順序、表裏、上下等をまちがえないために、スライド板に下記のような説明と、記号をつけて下さい。

下の図は映されたものが、こうあってほしいと思うようにスライド板を手にとった状態です。このむきで下図のように上左から、講演番号、氏名、映写番号を右へ順に記入し、さらにスライド枠の下端に5mm幅の赤線を、たとえばマジックインキで、1本入れます。もし、枠の地色が赤に近ければ、暗いところでよく見分けられると思われる色を任意に選んで下さい。



赤線または目立つ色(約5mm幅)

日本天文学会 1963 年秋季年会

プ ロ グ ラ ム

◇日 時 昭和 38 年 10 月 11 日(金), 12 日(土)

◇会 場 仙台市 東北大学金属材料研究所講堂

	午 前 (9時より)	午 後 (1時より)	夜
11 日 (金)	研 究 発 表	研 究 発 表	懇 親 会
12 日 (土)	研 究 発 表	研 究 発 表	

☆ 11 日(第 1 日)の昼休みに理事会を開催いたします。

☆ 講演数が多いので、お申込の所要時間を減らしたのがあります。御諒承下さい。

☆ 講演時間はお守り下さい。

講演予稿集について：特別会員には 1 部ずつ無料で配布しますが、その他の方および特別会員で 2 部以上希望される方は 1 部につき実費 60 円、送料 10 円をお送り下さい。年会の当日会場でもおわけします。

第 1 日 10 月 11 日 (金)

〔午前〕 (9 時より)

分

1. 若生康二郎 (緯度観測所): 極運動座標と観測所の分布との関係について……………10
2. 須川 力, 古川麒一郎 (緯度観測所): V.Z.T. と F.Z.T. のスケール常数
が赤緯補正に及ぼす影響について……………10
3. 弓 滋 (緯度観測所): 極運動 (1962.0—1963.2) について……………10
4. 関口直甫, 根道文子 (東京天文台): 極位置未来値推定法 (II) …………… 7
5. 関口直甫 (東京天文台): 極運動の減衰係数 (II) …………… 7
6. 角田忠一 (緯度観測所): 外力に対する地球核の回転運動の応答……………10
7. 奥田豊三, 須川 力 (緯度観測所): 極運動の永年変化について……………10
8. 高木重次, 角田忠一, 村上源吉 (緯度観測所): 時刻観測による極運動決定
のための統計的方法論……………12
9. 飯島重孝, 岡崎清市 (東京天文台): 極運動の年周成分の成因について……………12
10. 虎尾正久, 岡崎清市, 佐藤 寛 (東京天文台): 欧州, 北米, 南米および日
本列島相互間における経度の永年変化について……………10
11. 飯島重孝, 松波直幸, 岡崎清市 (東京天文台): 1963 年 1~2 月における地
球自転速度異変の解釈……………12
12. 飯島重孝, 藤原 清 (東京天文台): サーボ式 VLF 受信比較装置について……………10

〔午後〕 (1 時より)

13. 安田春雄, 深谷力之助, 原 寿男, 伊奈辰之 (東京天文台): 東京の子午環
の観測から求めた Star Place について (I) ……………7
14. 安田春雄, 深谷力之助, 伊奈辰之, 原 寿男 (東京天文台): 子午環観測か
ら求めた緯度について…………… 7
15. 井上圭典 (水路部), 恒星日数 C, D の補正值について……………10
16. 山崎 昭, 森 巧, 小野房吉 (水路部): フラッシュ・スペクトルによる
太陽-月の接触時刻測定装置……………10
17. 古川麒一郎, 平 三郎, 阿部 茂 (緯度観測所): 1963 年北海道皆既日食
観測報告 (I) ……………10
18. 坪川家恒, 北郷俊郎 (国土地理院): 人工衛星の追跡装置
—精密タイミング装置付写真赤道儀……………10
19. 井本 進 (大阪科学技術センター): 藤堂家旧蔵渋川春海作天球儀……………10
20. 堀 源一郎 (東大理): 小惑星の長年摂動について……………10

21. 古在由秀 (東京天文台): 人工衛星の軌道決定精度について	10
22. 堀 源一郎 (東大理): 人工衛星の運動に及ぼす地球の影の影響	10
23. 堀 源一郎 (東大理): 人工衛星の運動に及ぼす地球大気の影響	10
24. 青木信仰 (東京天文台): 人工衛星の Critical Inclination について	10
25. 青木信仰 (東京天文台): Commensurability の場合における Pericenter の 運動について	10
26. 富田弘一郎, 西村雅貴* (東京天文台, *甲南カメラ研究所): 自動流星写真儀	7
27. 田鍋浩義 (東京天文台): 海面及び陸地の反射能	5
28. 田鍋浩義 (東京天文台, ハワイ大学): 5300 A における大気光及び黄道光 成分	10
29. 田鍋浩義 (東京天文台, コロラド大学, ハワイ大学): 対日照の観測	10
30. 田鍋浩義, 中村 強, 中村純二, 齊藤馨児, 田中京子 (東京天文台): 北海 道日食における黄道光観測 (飛行機及び樽前山)	7

第 2 日 10 月 12 日 (土)

[午前] (9時より)

31. 竹内 峯 (東大理): 種族 I セファイドの脈動定数について	7
32. 高瀬文志郎 (東大理, カリフォルニア大): セファイドの運動学的解析	10
33. 高瀬文志郎 (東大理, カリフォルニア大): セファイドの K 項の解釈について	7
34. 石田蕙一 (東京天文台) ポテンシャル V_H による銀河軌道の解析 (II)	5
35. 堀源一郎 (東大理) 質量の中心集中度が時間と共に変る場合の星の運動 (II)	10
36. 宮本昌典 (東京天文台): 球状星団の空間分布について	10
37. 海野和二郎, 下田真弘, 菊池 仙 (東大理): 星間雲の凝縮 (II)	10
38. 高窪啓弥 (東大理): 星間ガスの構造	10
39. 宮本昌典 (東京天文台): 渦状腕の円輪モデルについて	10
40. 藤本光昭 (東大理): 系外星雲の Dark Lanes (II) —棒状銀河系—	10
41. 田中春夫, 柿沼隆清, 山下 崇 (名大空電研): 波長 8 cm における銀河電 波の観測	7
42. 高倉達雄 (東京天文台): 太陽電波 I 型バーストの発生について	12
43. 甲斐敬造 (東京学芸大): IV型バーストの円偏波 (II)	10
44. 河鱈公昭 (東京天文台): Gyro-resonance Radiation の輸達	10

[午後] (1時より)

45. 堀井政三 (生駒山太陽観測所): Coronal Condensation の physical condition
について……………10
46. 椿部生夫 (花山天文台): 1962 年 日食時における ポーラーレイについて…………… 5
47. 川口市郎 (花山天文台): 暈外線輻射のプロミネンスに及ぼす影響
(II 水素原子)……………12
48. 平山 淳 (東京天文台): 日食で撮れたプロミネンスのスペクトル (II)……………10
49. 鈴木義正 (京都学芸大): 太陽面周辺部における黒点半暗部のリム側と太陽
中心側における微細構造の違いについて…………… 8
50. 牧田 貢 (東京天文台): 地球大気の大擾乱による散乱函数のかたちについて…………… 7
51. 松丸 勝, 江沢 正(防衛大): 電子観測装置用フィルム駒どり録画装置…………… 8
52. 上条文夫 (東大理): ヘビ座アルファ星のスペクトル…………… 7
53. 藤田良雄, 辻 隆 (東大理): りょうけん座 Y 星の スペクトル解析……………10
54. 山下泰正 (東大理): M 型巨星の 写真赤外線スペクトル…………… 7
55. 辻 隆 (東大理): 星の大気における分子の解離平衡 (II)……………10
56. 上条文夫 (東大理): 炭素星大気における固体粒子の生成…………… 7
57. 寿岳 潤 (東京天文台): 高速計算機によるモデル大気の計算 (II)一
晩期型星の連続及び吸収線スペクトル……………10
58. 西村史朗 (東京天文台): G, K, M 型矮星の光電測光観測…………… 7
59. 近藤雅之 (東京天文台): Nova Her. 1963 のスペクトル (II)…………… 5
60. 北村正利 (東京天文台): 散開星団内の食変光星の研究 (I)一
TX Cnc について…………… 7
61. 等松隆夫, 藤田長子* (東大理, *東大生研): 厚い大気によるスペクトル線
の非密着性散乱の数値計算……………12
62. 林 正男 (東京天文台): 重力収縮過程の星の進化…………… 7